

八王子を舞台にした小説

<八王子度とは…>

作中で八王子が描かれている程度を三段階で表しました。あくまで目安ですので、是非、ご自身で読んでみて確かめて下さい！ なお、このリストに掲載した作品は図書館のホームページ内「おすすめの資料」コーナーから予約することができます。こちらもどうぞご覧ください。

★★★★…ほぼ全体に八王子が感じられる作品

★★…半分程度に八王子が登場し、重要な役割を果たしている作品

★…八王子の地名等が登場する作品

タイトル	著者	八王子度	あらすじ
「吹部！」	赤澤竜也	★★★★	変人？顧問“ミタセン”が、超個人的メンバー揃いのお気楽弱小吹奏楽部を、1年で全国大会に出場させる、と宣言！！都立片倉高校吹奏楽部をモデルにした、心が元気になる青春ノベル。
「わが身世にふる、じじわかし」	芦原すなお	★★★★	「ぼく」の家に河田警部がやって来た。老人二人が失踪し、八王子警察署と高尾警察署にそれぞれ捜索願が出されたというのだ…。八王子市郊外に住む作家の「ぼく」と、推理力抜群・料理上手な妻の、ほのぼのの推理小説「ミズクとオリーブ」シリーズ第3弾。
「天保百花塾」	井川香四郎	★★★★	高尾山の麓、八王子宿にある寺子屋「百花塾」。江戸の町方同心を退き、百花塾の手習師匠となった大窪伝次郎は、様々な事情を抱える子供たちと、真摯に、そして情愛深く向き合っていく。
「戦国関東血風録 北条氏照修羅往道」	伊東潤	★★★★	攻め来る秀吉から北条家が守り続けた「領主の使命は民の幸せをはかるにあり」の精神。その志をつぶさに描く歴史大長編。
「八王子城」 （「狐型狸型」収録）	遠藤周作	★★★★	この山は戦国時代には武将たちが戦った場所。しかし今はすっかり老廃している一妻と息子の三人で八王子城址へやって来た男は、山城を歩きながら自分と城址の姿を重ね合わせる。一抹のやるせなさを感じさせる短編。
「八王子城滅亡 天正十八年六月二十三日」	川村掃部	★★★★	豊臣軍の前田利家と上杉景勝が率いる大群が八王子城へと攻め込む。それは天正十八年六月二十三日のことだった。八王子城での決戦の日を描いた歴史小説。
「氣遣い部落周遊紀行」	きだみのる	★★★★	戦中戦後を八王子市に暮らした著者が、戦後間もないころの山村に住む人々の様子を観察記録風に著した文学的かつ社会学的作品。（第2回毎日出版文化賞受賞作）
「八王子のレッド・ツェッペリン」	木根尚登	★★★★	都会でも田舎でもない「宙ぶらりん」な街・八王子で、僕こと美木は仲間たちとバンドを結成した。プロミュージシャンである著者自身の夢と友情と青春を描いた自伝的小説。
「北条氏照異伝」	日下部政昭	★★★★	時は戦国の世。八王子城を築いた名将・北条氏照はまた、吹笙を愛する文化人でもあった。その数奇な生涯を壮大なスケールで描く。
「定年ゴジラ」	重松清	★★★★	高卒以来42年間仕事を勤め上げ定年退職した山崎さんは、第二の人生をスタートさせた。無我夢中で働いていた頃とは一転した生活の中で、新しい生き方を考える。めじろ台をモデルにした架空のまち「くぬぎ台」に住む男性たちの物語。（その他『ビタミンF』『エイジ』『トワイライト』には多摩ニュータウンをモデルにしたと思われるまちが登場）
「絹の変容」	篠田節子	★★★★	七色に輝く絹に魅せられた男が蚕の改良を始めるが、それは個人の研究の域を超え、町中を脅かす事態へ発展する。八王子市在住の直木賞作家が織物のまち八王子を題材に描くSF小説。（第3回小説すばる新人賞受賞作）
「またやぶけの夕焼け」	高野秀行	★★★★	我らカッチャン軍団、遊びはいつも真剣勝負。軍団結成のきっかけとなった“ドブ川源流探検”、名誉をかけた“幻のクワガタ捕り”などなど、カッチャンを先頭に突き進む。1970年代後半の片倉周辺を舞台にした少年たちの物語。
「多摩困民記」	多田茂治	★★★★	明治17年、松方財政と呼ばれる民衆収奪策の下で農民たちが苦境に追い込まれていく中、自らもこれに巻き込まれながら農民を救うべく奔走した人々の姿を描く。
「悲愛 千人頭、石坂弥次 右衛門義礼の生涯―」	縄田清	★★★★	幕臣として、千人隊之頭として、幕末～明治にかけての激動の時代を生きた石坂弥次右衛門義礼の生涯を通して生と死の意味を問う。
「魔法使いは完全犯罪の夢を見るか？」	東川篤哉	★★★★	傍若無人の美人警部・椿木綾乃と、キレ者か変態かわからないその部下小山田聡介。八王子署の名物コンビの事件現場に市内在住！？の毒舌美少女魔法使いが現れて…。魅力的な謎が詰まった中篇集。
「魔法使いと刑事たちの夏」	東川篤哉	★★★★	美少女魔法使い・マリィを家政婦として自宅に住ませることになった小山田刑事。マリィに助けられ、美人上司・椿木警部に罵倒されながら、難事件を次々と解決していく。ユーモアミステリー第二弾。
「八王子城炎上 利家・景勝軍を迎え戦国の終わりを告げた合戦秘話」	藤田道夫	★★★★	天正18年、豊臣軍の猛攻を受け、僅か一日足らずで落城した八王子城。この名城を支え、戦い続けた武士・農民らの壮絶な戦いを描く。
「大久保長安 一十一年の栄光と悲慘の生涯―」	堀和久	★★★★	武田信玄のもとで算勘を磨き、徳川家康に認められ、武蔵国八王子に領地を与えられた大久保長安。宿場の建設や千人同心の創設など八王子のまちの歴史に大きく関わりながらも謎の多い大久保長安の生涯を描く。

タイトル	著者	八王子度	あらすじ
「多摩の夕映え お志津袖の由来」	美紀光彦	★★★	明治の始め、日清戦争に記者として従軍していた平戸は、帰国後に八王子の郭で初恋の女性・志津と再会する。ふたりは二世の契りを交わすが、幸せは長くは続かなかった…。志津は浅川を真っ赤に染め上げる夕映えに親子三人が暮らした日々を思い、やがてその景色を機に織ることを思い立つ。(多摩の織物と女性史シリーズ・1)
「多摩總乱の歌 多摩を織る女」	美紀光彦	★★★	昭和20年・春。帝国陸軍の航空士官・原千久麻と婚約者の糸子は、滝川城址の桜を眺め感嘆の声をあげた。多摩川に舞い散る桜吹雪の美しさを機に織りながら、糸子は戦地に赴いた愛する原のことを思う。(多摩の織物と女性史シリーズ・2)
「千人同心」	もりたなるお	★★★	武田信玄息女於松(松姫)を守り、武蔵・八王子に逃れた武田家旧臣たち。千人同心を組織した彼らが目指すのは、武田家再興なのか、それとも…。長編歴史小説。
「早春賦」	山田正紀	★★★	時代は徳川家康の頃。八王子郷に暮らす若者・風一は半士半農の郷土であるが、その実、戦場を知らず育ってきた。しかしある夜、風一の父・簡六が石見屋敷の不穏な気配に気が付いて…。「千人同心」「大久保長安」など、八王子の歴史を語る上では外せないキーワードでつづられる時代小説。方言で交わされる会話にも注目。
「展覧会いまだ準備中」	山本幸久	★★★	東京郊外にある「野猿美術館」の学芸員・今田弾吉は、個性的な先輩たちとともに日々懸命に仕事をこなしていた。そんな弾吉の毎日が、美術品専門運搬会社のサクラとの出会い、そしてある一枚の絵の鑑定依頼によって変わっていく…。
「芸者でGO！」	山本幸久	★★★	八王子市出身の著者が置屋「夢民(ゆめたみ)」を舞台に描く、5人の芸者たちのお仕事&恋愛&人情エンターテインメントストーリー！『展覧会いまだ準備中』の野猿美術館館長も登場。
「高尾山魔界の彷徨」	梓林太郎	★★	小仏探偵事務所に中学教師・友坂からの相談が入る。教え子の女子生徒との関係を知られ、成田と名乗る自称刑事から強請られているというのだ。元警視庁の刑事だった小仏探偵はさっそく調査を開始するが、そんな折、高尾山で遺体が見つかって…。
「しぐれ茶屋」 (「銀しゃい抄」収録)	稲垣瑞雄	★★	八王子在住の著者が、鮎に魅せられた半生を振り返る連作短編集。「しぐれ茶屋」では高尾の寿司屋が登場。
「RDG(レッドテータガール)」 全6巻	荻原規子	★★	「姫神憑き」の運命を背負う主人公・泉水子は、幼なじみの深行と共に、八王子にある全寮制高校鳳城学園に入学する。そこでルームメイト真響らと出会い、様々な困難を乗り越えながら、自分の運命を見つめ直し成長していく。(八王子が舞台となるのは2・4・5巻)
「父が消えた」	尾辻克彦	★★	この春に父が亡くなった。墓地を探している私は、高尾の八王子霊園に見学へ行くために電車に乗った。同行人の馬場君は、母子家庭だ。そんな彼と「父親」について話したりするうちに、電車は私たちを高尾へと運んでいく…。(第84回芥川賞受賞作)
「風嘯」	くだらやすし	★★	太平洋戦争末期、戦争の不条理さと非情さの中で必死に生き方を模索する少年の姿を描いた小説。2003年刊『風傑』の続編。八王子空襲の場面あり。
「八王子七色面妖館密室 不可能殺人」	倉阪鬼一郎	★★	八王子の一角にある、七色に外壁を塗られた洋館「七色面妖館」で起こる7つの不可能殺人に、探偵・宵内初二が挑む！
「八王子千人同心の誇り」 (「鬼役9～大義～」収録)	坂岡真	★★	将来を囑望されていた、八王子千人同心組頭の息子・松岡隼人が乱酔侍に斬殺された。侍はなんと千人同心を統轄する御槍奉行の息子だった…。現場に居合わせた蔵之介は、千人同心たちの無念を晴らすことができるのか…。痛快鬼役シリーズ。
「千人同心の誇り」 (「浪人若さま新見左近5～陽炎の宿～」収録)	佐々木裕一	★★	千人同心屋敷地内の友人を訪ねた左近たちは、鬼坊主一味が強盗をくり返し庶民を苦しめていることを知り、組頭・品川を助けて解決に乗り出す。後の名将軍・徳川家宣が身分を隠し、新見左近として庶民の敵をこらしめる人気シリーズ第5弾。
「被匿」	堂場瞬一	★★	西八王子署管内で代議士が不審死。簡単に事故と断じられたこの事件の裏側にひそむ真実を刑事・鳴沢了が追う。(鳴沢了シリーズ全10作のうち、『被匿』のほかに『疑装』『久遠 上・下』で八王子が舞台に)
「吸血の家」	二階堂黎人	★★	昭和44年、八王子の旧家「久月」で起きる連続殺人事件。江戸時代から伝わる伝説「翡翠姫(血吸い姫)」の呪いなのか…。？名探偵・二階堂蘭子が事件に挑む。
「松姫はゆく」	仁志耕一郎	★★	かつての許嫁・織田信忠に思いを残す松。しかし、父信玄亡きあと、甲斐・武田家に攻めて来たのはその信忠率いる、織田・徳川連合軍だった…。愛情は憎しみにかわり、城を追われて八王子に逃げた松。お家のために生きながらも、やがて同朋衆・獅子之助にこころ惹かれていく。
「婿殿帰郷」	牧秀彦	★★	勘定奉行・梶野良材の密命を受け、千人同心たちの動向を探るため、武州八王子に旅立った笠井半蔵。妻を伴い新婚気分を味わっていたのもつかの間、予期せぬ危機が半蔵を襲う。算盤侍影御用シリーズ第7弾。
「黒い空」	松本清張	★★	八王子郊外にある結婚式場「観麗会館」の空は、凶兆の色・黒をまとうカラスの群れで覆われていた。そして、カラスの不吉な鳴き声が響く夜、事件が起こる。
「黒い神座(みくら)」	森村誠一	★★	戦後の絶望感の中、一人の農夫からもらったにぎり飯に身も心も救われ、政治の世界で成功した間室。時を経て再び訪ねた時、その農夫が殺害されていたことを知る。その後、農夫に譲ったはずの壺が高尾山で拾われ、この壺をめぐる間室の周囲が騒がしくなっていく。
「別冊図書館戦争 2」	有川浩	★	防衛部・図書特殊部隊の鬼教官・堂上と小牧。二人が若かりし頃の失態エピソードの中に「八王子の図書館」が登場。ご存じ「図書館戦争」シリーズの別冊。
「リターン」	五十嵐貴久	★	手足と顔がない死体が高尾で発見された。それは、10年前スーカー・リカに拉致された本間だった。警察官1名を含む3名を殺害して逃亡したリカを追い続けてきたコールドケース捜査班の刑事・尚美は、同僚の孝子と共に捜査に加わるが…。2002年刊『リカ』の続編。
「夕焼け小焼けで殺されて」	太田蘭三	★	八王子下恩方で殺人事件が発生。殺人犯に間違われた泥棒の大二郎は、自らの容疑を晴らすため警察署を脱走！北多摩署の名物刑事と密かに連携を取りながら真犯人を追う。

タイトル	著者	八王子度	あらすじ
「信松尼」	河辺リツ	★	武田家・織田家の政略のために婚約した信忠と心を寄せ合いながらも離れ離れになり、乱世に翻弄されながら懸命に生き抜いた松姫。八王子に逃れたあとは「信松尼」となって、武田家一族の冥福を祈ったという武田家息女・松姫の半生を描く。
「依頼人」 （「好きな人」収録）	神田茜	★	引っ越し荷造り作業員の晶子は、仕事仲間と西八王子駅で待ち合わせ。今日の職場は追分町のマンションだ。平凡な毎日を通ぐす5人の女性たち。それぞれの人生に輝きを取り戻させたのは…？ 日常に潜む悲喜こもごもを繊細に描き出した連作短編集。
「紙の碑に涙を 上小野田警部の退屈な事件」	倉阪鬼一郎	★	多方面で活躍する才人・西木が東京・八王子で殺害された。犯人と目される人物は、遠く離れた渋谷のホールでクラシックのコンサートを聴いていたと主張しているのだが…。果たして上小野田警部はこのアリバイを崩せるのか？
「草の響き」 （「きみの鳥はうたえる」収録）	佐藤泰志	★	神経科の医者に走ることを勧められた主人公。多摩御陵（大正天皇の墓）の周りを走ることによって徐々に自分を取り戻していく物語。
「浅川の野鳥」 （「花の雲」収録）	沢野ひとし	★	多摩丘陵近くに住んで20年。会社の倒産を機にイラストレーターとなった「私」。出会った女性たちに振り回される男の、どこかもの悲しい恋の短編集。
「高尾参り」 （「たちばな亭恋鞘当て」収録）	澤見彰	★	富士山登山と同じご利益が得られるという「高尾参り」。ライバル伊勢屋が愛犬ポチを「高尾参り」に行かせたことを知った橘屋は、隣に住む金一・お久夫婦から犬のクマを借りてきて「高尾参り」に送り出そうとするが…？
「燃えよ剣(上・下)」	司馬遼太郎	★	新選組副長・土方歳三の生涯を描いた長編歴史小説。上巻には、土方ほか天心心理流武術館の面々が八王子比留間道場に討入りする場面あり。
「徒然王子 第1部」	島田雅彦	★	王家の末裔・テツヒト王子は、ある日宮邸内の森で仙人に問いかける。「旅に出るか、憂愁の森にとどまるか…？」旅に出ることを選んだテツヒトは雑用係・コレミツと共に宮廷を出る。二人はシンジユクから中央ラインののってタカワのホープレス・タウンを訪れたのだが…。
「居場所もなかった」	笹野頼子	★	居心地が良かった八王子のマンション。そこを出なければならなくなった時「私」は、オートロック付・作家可の物件を求めて不動産ワールドに迷い込む！
「片づけられない作家と西の天狗」	笹野頼子	★	全く部屋を片づけられない「私」。そんな「私」にある日突然高尾の天狗が乗り移り、ひたすら片づけに走らせる…！！空想小説。
「バージンパンケーキ国分寺」	雪舟えま	★	女子高生みほは、幼なじみの明日太郎と親友の久美がつきあい始めたことに複雑な感情を持っていた。ある日、くもりの日にだけ開店する、ちょっとかわったパンケーキ屋さんを訪れたのをきっかけに、みほの心に変化が…。
「甘いもんでもおひとつ 一藍千堂菓子噺」	田牧大和	★	名人と呼ばれた菓子職人だった父の死後、菓子司「百瀬屋」を叔父に追い出され、小さな「藍千堂」で菓子作りに励む晴太郎と幸次郎の兄弟。しかし、叔父の嫌がらせは執拗に続く。あの優しかった叔父がなぜ…？ 第一話「四文の柏餅」では、上恩方村の柏の葉が活躍！
「武田家滅亡 お松ご料人逃走記」	土橋治重	★	信玄亡き後も繁栄を続けた武田家。しかし、その武田家を悲劇的な運命が襲う…。信長の侵攻からわずかひと月で跡形もなく消えてしまった武田家の謎に迫る長篇歴史小説。
「大菩薩峠 19」	中山介山	★	虚無に取りつかれた主人公・机竜之介の、大菩薩峠に始まる旅の遍歴や出会った人々との関わりを描いた長編小説。著者の死により未完で終わっている。19巻「小名路の巻」では高尾町の花屋旅館が登場。
「十津川警部「記憶」	西村京太郎	★	誘拐されながらも無事に発見されたカメラマン。彼は、子どもの頃に浅川の河原で保護され養護施設で育ったのだが、保護される以前の記憶はわずかに「SL・桜・二人の男女」だけだった。果たしてこの「記憶」が事件解決の鍵となるのか？
「滅びの宴」	西村寿行	★	もう終わったはずの山梨の悪夢…。2年たった今、再び悲劇が東京を襲う！ペスト菌を持つ鼠の大群が餌を求めて東京に押し寄せる。感染を恐れた他県は東京人の避難受入を拒否。孤立無援の中、人々がとった行動とは？『滅びの笛』続編。
「流うちわ」 （「自白-刑事-土門功太郎-」収録）	乃南アサ	★	「人をね、一人始末してほしいんだわ」見知らぬ若者に金をちらつかせ殺人の手伝いを依頼する女。上巻分町で起きた殺人事件を捜査する警視庁捜査一課の土門は、被害者の妻の自白を引き出す…。
「走ル」	羽田圭介	★	ふとしたことから、物置にあったロードバイクに乗って八王子の自宅から四谷の高校まで登校した主人公。皇居の周りを走っているうちに秋葉原に着き、とうとう国道四号線で東北をめざすことになった…。
「講談 大久保長安 (上・下)」	半村良	★	石見銀山、佐渡金山の開発により徳川家の財力の基盤をつくり、幕府直轄地の支配や駿府城再建に手腕を発揮しながらも、死後「稀代の悪人」との風評が伝えられたという大久保長安。謎の多いその人生を、大胆な新解釈を盛り込み名調子で描いた異色の長編時代小説。
「外田警部、あずさ2号に乗る」 （「外田警部、カシオペアに乗る」収録）	古野まほろ	★	若きキャリア上司への熱い忠誠を胸に、愛媛弁で執拗に犯人を追いつめていく和製コロンボ・外田警部。「外田警部、あずさ2号に乗る」では、八王子駅が登場。
「俺俺」	星野智幸	★	なりゆきでオレオレ詐欺を働いたその日から「俺」がどんどん増殖していく…。上司も母親も友達もみんな「俺」？！第三章では「俺」らで高尾山登山。第五回大江健三郎賞受賞。
「罪時雨」 （「ヒトリスカ」収録）	誉田哲也	★	八王子署に勤務する刑事・唐沢は、行きつけの床屋でDV被害の相談を受ける。そんな矢先、相談者・美雪の夫が北野台のアパートで殺害されて…。「静加」をキーワードに繋がる連作短編集。
「きのね(上・下)」	宮尾登美子	★	塩焚きの家に生まれた光乃は、縁あって当代一の誉れ高い歌舞伎界の松川家に奉公に出る。やがて光乃は病弱な長男・雪雄と恋に落ち疎開先の八王子で結ばれるが、波乱万丈な運命に巻き込まれていく。第十一世市川團十郎とその妻をモデルに書かれた小説。
「怒り(上・下)」	吉田修一	★	八王子の殺害現場に残された「怒」の血文字。犯人と目される山上は行方が知れないまま一年が過ぎた。東京・沖繩・房総にそれぞれ暮らす三人の謎の男たち。いったい誰が山上なのか？

児童書

タイトル	著者	八王子度	あらすじ
「小さい仏さまの峠」	菊地正	★★★	小仏峠のふもと、裏高尾の村に疎開してきたチコちゃん。ある日、チコちゃんの目の前で、満員の列車が戦闘機に襲われて…。
「八人の王子さま」	くだらやすし	★★★	昔々の八王子を舞台にしたお伽噺。氾濫した案下川と水びたしになってしまった田畑を元通りにした第一王子、厄病神を追い払った第二王子など、八王子城の記録の中にあつた八人の王子の物語を、楽しい絵とともにつづる。
「家出ねこのなぞ」	古世古和子	★★★	八王子市立泉小学校では、子どもたちの飼ひ猫行方不明事件が続いていた。猫を探すうちにケイスケ達は、のら猫の世話をすることで有名なねこばあさんの悲しい過去を知ることになる。
「ランドセルをしょったじどうさん」	古世古和子	★★★	昭和20年7月。疎開していた9歳の少年が戦闘機からの銃撃を受けて死にました。少年によく似たお地蔵さんをみて、お母さんは少年のランドセルをそっとしよわせたのでした…。今も泉町の相即寺に残る「ランドセルをしょったおじどうさん」の実話をもとにして書かれたお話。
「かかしの家」	古世古和子	★★★	戦争のため、八王子の山あいの寺に集団疎開してきた睦子たち。つらい生活の中でもいきいきと発揮されたこどもらしさと戦争がもたらす悲しみを描く。
「赤いくし」	古世古和子	★★★	北条氏照の家臣・中山家範のむすめカエデと貧乏百姓のむすめモエは、仲の良い姉妹のように育った。お揃いで持っていたはずのカエデの赤いくしは、八王子城落城の数日後、御主殿の滝に流れ着いていた…。
「くわの木になったむすめ」	古世古和子	★★★	12歳で八王子の機屋に奉公に出たサキ。同じ奉公人のタミと励ましあいながら、厳しい機織りに励んでいた。「生まれ変わったら、くわの木のように根を張って生きよう！」誓い合った二人だったが、タミは病に倒れてしまう…。織物のまち八王子の発展を支えた幼い少女たちの物語。
「くいの木のこと」	島本一男	★★★	保育園にたつ大きなくいの木。春夏秋冬、園児のみんなを見守ってきたこの木を切り倒すことになり…。八王子浅川保育園園長を務めていた作者が実話にもとづいて描いたお話。
「ひよどり山物語」	三十田岳	★★★	むかし、昔のことです。武州八王子の近郷に小宮村という小さな村がありました。その村の境にある「ヒヨドリ山」のオオカミ谷に出かけた、小学校3年生の「のどか」と「駿」君は…。
「松姫ものがたり」	菊池正	★★	武田家の息女・松姫。長篠の合戦で武田氏が織田氏に敗れると、八王子に逃げ延び、その後八王子の地で尼として、合戦で死んだ人々の冥福を祈ったというその生涯を、子ども向けに描いた作品。

番外編

小説ではありませんが八王子を感じられるエッセイや紀行文、ノンフィクションです。

タイトル	著者	八王子度	あらすじ
「哀愁の田町 遊廓浜田楼」	鈴木ナミ	★★★	八王子市田町。戦中から戦後にかけて遊廓があつたこの町の哀愁を、遊廓「浜田楼」の楼主夫妻やその周囲の人たちと交流のあつた著者が綴つたノンフィクション。
「呪われたシルク・ロード」	辺見じゅん	★★★	生糸産業が栄えた幕末から明治初期にかけて、横浜から遠く群馬県まで続く「絹の道」があつた。その中継地点だつた八王子市鎌水。この土地で繰り広げられる生糸商人たちの栄枯盛衰を、実際に起きた二つの殺人事件ともからめて、綿密な取材と調査で描いたドキュメント。
「すずめ台つれづれ日記」	三田誠広	★★★	1980年代はじめ。芥川賞作家の著者が、まだ「何かがたりなく」て「整いすぎて不自然な感じがする」すずめ台(めじろ台)に移り住み、まちのこと、家族のこと、日々の考察などを綴つたエッセイ集。『週刊宝石』に連載。続編『すずめ台駅前情報局』もあり。
「オール・イン 実録・奨励会 三段リーグ」	天野貴元	★★	「オール・イン」カジノの用語で手持ちのチップをすべて投じて大勝負に出ること。羽生善治を輩出した名門・八王子将棋クラブで腕を磨いた著者は、10歳で奨励会に入会。順風満帆にプロ棋士を目指すはずだったが…。プロへの道を断たれ、さらには舌ガンの宣告を受けながらも、将棋に人生のすべてを賭ける著者の赤裸々な手記。
「峠をあるく [歴史紀行]」	井出孫六	★★	ルポ・ルタージュの分野で活躍した著者が全国の様々な峠を歩いた記録。「御殿峠」では武相国民主党ゆかりの地を巡るため、犬目町の安養寺から谷野、富士森、小比企を通過して御殿峠を越え、相模原の鹿島神社までの三十キロを歩く。
「相模野 随筆」	小林清子	★★	庭に迷い込んできた猫を飼つたり、高尾の山を見上げて鳶をみつけたり…。医師として働く忙しい毎日の中、日常にあるささやかな喜びを夫とともに慈しんで生きる著者の随筆集。第二随筆集『駒木野 随筆』もあり。
「太陽へのラブレター」	鈴木ナミ	★★	十五歳にして悪性の膠原病を患い、あと二年の命と宣告されながらもひたむきに生きた少女とその家族の壮絶な闘病の記録。1990年、小川範子・宇津井健・長山藍子らでドラマ化。
「福笑い殺人事件」 (「犯罪調査」収録)	井上ひさし	★	目隠しをされ、なぜか口元に微笑を残したまま殺されていた女性の遺体。いったい彼女は誰に、何のために殺されたのか？戦後、八王子の小料理屋で実際に起きた殺人事件を、時代背景とともに著者が独自の視点で読み解く。
「街道をゆく 1 (甲州街道 長州路ほか)」	司馬遼太郎	★	日本国内・海外の街道を訪ね歩いた著者の旅行記シリーズ。第1巻では甲州街道を歩く。「武蔵のくに」「甲州街道」「小仏峠」では八王子が登場。
「高尾紀行」 (「子規全集 第13巻」収録)	正岡子規	★	明治25年。新宿から汽車に乗り俳道修行にでた正岡子規は八王子に下り立つ。茶店で憩い、高尾山からの景色を楽しむ…。「目の下の小春日和や八王子」
「ダイダラ坊の足跡」 (「日本現代文学全集 36」収録)	柳田國男	★	由井村から宇津貫にかけて、富士山を背負おうとした大男・ダイダラ坊の足跡があつた…。？「日本民俗学の父」と呼ばれた柳田國男の伝承考に八王子が登場。

八王子が舞台になっている作品をご存知でしたら、ぜひ図書館へお知らせください。
みなさんからの情報提供をお待ちしております！

平成27年4月 八王子市図書館